

富山の宝は、 日常の中にあります。

宝は日常に潜んでいる。

東京の大学を卒業後、中国の日本人学校で4年間、語学を教えていました。帰国後、8年ぶりに戻った富山で実感したのは、自然の美しさや食物の美味しさ。「富山の魅力をもっと外国人に伝えるための観光拠点を作りたい」と決意し起業しました。拠点として八尾を選んだきっかけは、偶然出会った棚田と町並みのコントラストの美しさに魅せられたことです。

実際に住んでみると、八尾の人は「おわら以外は何もないちゃ」と日常の中にある宝に気づいていないように感じました。外国人観光客が感動や驚きを覚えるのは、冬の雪流し(雪かき)や、毎晩定期的にカランカランと鳴り響く火の用心の鐘など、町の人にとってはごく当たり前のこと。また、八尾では365日おわらが聞こえると言えるほど、稽古(いそ)に勤しむことも習慣になっています。滞在するからこそ分かる宝を、もっと伝えていきたいですね。

外国人に八尾の魅力を発信。

八尾に息づくおわら風の盆は、町の人たちによって受け継がれてきました。その文化や日常にある宝を守るには、「財・人・事業を残すことが必



▲ 外国人観光客の着物着付け体験の様子



原井紗友里さん

要」と地元で会社を構え、蔵を利用した宿や着物のリメイクショップなど、さまざまな事業を展開してきました。

最初に手がけたのは、町の宝を主に海外の人たちに知ってもらうための宿、いわば観光拠点です。また、外国人観光客が地元の方との交流を深め、異なる日常を体験するための架け橋としてカフェバーも併設しました。

地元の人が文化をつなぐ。

特に印象深い出来事は、マレーシアから来たご家族のエピソードです。子ども用の着物がなく着付け体験ができなかった娘さんに、近所の方がお孫さんの浴衣を貸してくれたのです。よほど嬉しかったのでしょう。1年も経たないうちに、その方に会いたいと再訪されたのです。また、食事処で地元の方と意気投合し、その方のお宅でおわらの稽古を見せてもらうことも

ありました。皆さんの粋な計らいがあつてのことでしたが、文化をつなぐお手伝いできたようで、とても嬉しかったです。

八尾全体をホテルとして。

“通年観光”をキーワードに現在進めているのが、八尾の「平面ホテル化構想」です。町全体をひとつのホテルに見立て、改装した町屋の宿を客室として点在させます。朝食には町のパン屋さんのパンをお届けし、夕食は提供せず、既存の食事処や土産物店などを巡ってもらいます。

高い回遊性と滞在型を組み合わせ、八尾にとって経済効果の高い仕組みづくりを行うことで、町全体に雇用が生まれ新規事業者も増えていきます。最終的には定住人口も増え、八尾の宝を守ることにつながるのではと思っています。

この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング(驚くほど素敵)」な富山について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。
▶ 詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。



▲ WEB サイト

原井紗友里(はらいさゆり)さん
1987年富山市生まれ。株式会社OZ Links(富山市)代表取締役女将。2014年に帰国し観光について学んだ後、2016年1月に同社を設立。同年6月に越中八尾ベースOYATSUを開業。